

(別紙5)

補助事業番号 28-4-005
補助事業名 平成28年度 平成28年度被災地域及び被災者受入地域における児童・
高齢者・障害者等を対象とした生活支援活動
補助事業者名 特定非営利活動法人コースター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

東日本大震災および福島第一原発事故により、全村民に避難指示がなされた川内村において、平成29年3月31日をもって、村内以外の仮設住宅の借上が終了に伴い、村への帰還または別の場所への移住が求められていた。段階的に避難指示が解除されたことから、早期に帰還した住民とぎりぎりまで仮設住宅で生活を行う住民とのコミュニティが希薄になってしまっている。また、高齢化率も高いことから、村に帰還したくても、引っ越しや片付けへの余力がなく、仮設住宅に暮らさざるを得ない住民も存在する。

これらのことから、郡山市に避難する川内村の仮設住宅を中心に、外部ボランティアによる引っ越しの補助・清掃ボランティアのコーディネートを通して、今後の生活に関する御用聞きを行うことで、帰還支援を行うことを目的に実施した。

加えて、既に帰村した住民と仮設住宅の住民および支援団体との交流を通して、住民関係の再構築を行い、帰還後のコミュニティ創出も目指した。

(2) 実施内容

○帰還に向けた引っ越し・清掃ボランティアの実施

7月、12月、3月の計3回で、89名のボランティアに参加いただき、郡山市にある南一丁目仮設住宅にて、平成29年3月31日の仮設住宅借上終了に伴い、48軒の引っ越し・清掃ボランティアのコーディネートを実施した。

具体的には、高齢者が多い家庭での荷物の搬出や退去に伴う片付け・清掃（特にエアコン掃除や換気扇などの高所）を行った。

また、当該仮設住宅では、仮設住宅の賠償金の格差により、貧困に苦しむ家庭が多かったことから、仮設住宅に全国から支援物資の提供を定期的に募っている。仮設住宅での生活終了後も、こうした家庭への支援を仮設住宅の自治会が行っていくことから、支援物資の整理し、配布しやすいよう小分けするなどの活動も行った。

(別紙5)

○仮設住宅の住民と村の住民をつなげるイベント等の開催

2月と3月に3回、仮設住宅の住民と村民、そして、支援団体をつなげるイベントを実施した。2月には、住民や支援団体20名と共に、福島第一原発に視察を行い、現在の第一原発の廃炉状況について東京電力からの説明を受けた。この視察後、3月に視察状況から感じたことを話し合う報告会を3月に開催し、13名の住民と支援者が参加した。

また、3月31日に川内村の住民が生活していた郡山市内の仮設住宅の借上げが終了し、多くの住民が村内または県内の各地にバラバラに帰還することになってしまった。帰還・移住後に、早期に帰還した住民の関係構築や仮設住宅で形成された住民や支援団体との交流を引き続き促すために、仮設住宅お別れ会という名目で、仮設住宅の住民や既に帰還した村民、かつて仮設住宅で支援を行った団体集めての交流会を実施し、41名の参加があった。交流会では、今までの仮設住宅の生活を振り返るとともに、交流を行いながら、今後村内で住民と支援団体が一緒にできる活動について検討を行った。その他、参加できなかった住民には、今後も関係性を継続できるよう、参加者の記念写真を撮影し、メッセージを添えて送付した。

2 予想される事業実施効果

本事業での清掃・片付けボランティアが村に評価され、平成29年7月に40名のボランティアの協力の元、村での伝統的なお祭りである「天山祭り」の運営補助を行うことができた。今後は村役場のみならず、村内で帰還した小学校・中学校での外部ボランティアへのニーズが生まれつつある。

また、仮設住宅の自治会との連携で仮設住宅にいた住民と支援団体との同窓会・交流会も現在企画中である。本事業で信頼関係構築できたからこそ、今年度も自主事業として継続できている。こうした企画を通して外部ボランティアと住民の交流を定期的に行うことで見守り機能を持ったコミュニティを構築していきたいと考えている。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

事業報告書 (<http://costar-npo.org/?p=787>)

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 特定非営利活動法人コースター

(トクテイヒエイリカツドウホウジンコースター)

住 所 : 〒983-0871 福島県郡山市富久山町久保田字下河原191-1

代表者名 : 代表理事 岩崎 大樹

電 話 番 号 : 024-983-1157

E - m a i l : info@costar-npo.org

U R L : <http://costar-npo.org/>